



年4回開催される、全体職員研修。2月18日に行われた研修では、支援についての事例研究を行いました。

いたる通信 64号 春号

ITARU CENTER

平成29年度・事業計画・理事長方針

社会福祉法人いたるセンター

理事長 谷山 哲浩

(たにやま てつひろ)

目次 contents

- 01 巻頭 谷山理事長
- 02 クリーニング事業への取り組み
 - ・開設3年目を迎えて
 - ・29年度の取り組み
- 03 いたるセンター支援の現場から
 - ・グループホームの現場から
 - ・ショートステイの現場から
- 04
 - ・ピヨピヨおうちえん便り
 - ・自主生産品販売会レポート
 - ・目黒本町福祉工房との連携
 - ・ガイドヘルパー研修を定期開催
- 05
 - ・これからの10年～意識が変われば行動が変わる～
 - ・「にぎやかな風」フルオープン
 - ・作業所開設30周年に寄せて
- 06
 - ・いたる職員だより
 - ・法人本部

「いたる賛助会」では、「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。幸せな地域社会を作りたい！がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1,050円(口役でも可)

郵便振り込み 00110712892

TEL 339217346 事務局 山本まで

平成29年度は、昭和42年社会福祉法人「いたる臨床発達指導センター」として、相談事業ならびに職業訓練部事業を開始して50周年になる記念すべき年になります。現在の社会福祉法人いたるセンターは、平成16年に法人名称を変更し、事業を拡大してきました。

さて、平成27年度に続き、平成28年度上期は、イタル成城、阿佐谷福祉工房の赤字により、法人の経営は大変厳しいものになりましたが、各位の努力により下期に回復の兆しが見えてまいりました。回復にいたるまで、両事業の内部監査、効率経営を求めたアメーバ経営の導入、ISO9001の導入などマネジメ...

平成29年度は、事業方針を以下の通り示達します。

1. アメーバ経営の本格導入と事業効率化の推進。内部体制の充実と経営効率の向上を目指して平成29年度から本格的に進め、月次決算からアメーバ経営フォームに基づき見直しを作成し、併せ功労賞を支給します。
2. ISO9001の取得拡大。阿佐谷エリア(阿佐谷福祉工房、クローバー、いたる...
3. 職員研修とキャリアアップ制度の拡充。研修や自己研鑽の成果を昇給・昇格に結びつけるシステムを検討し、新たな制度の構築を図る(障害者介護マイスター制度等)。

半世紀にわたる総合的な福祉サービスの提供を通じ、地域福祉の充実に注力・邁進してきた社会福祉法人いたるセンター。皆様の変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

いたる職員便り/4~6月に誕生日を迎える職員のみなさま、おめでとうございます。

4月08日 石山美咲子さん
(阿佐谷福祉工房・就労B型)
音楽を聴くことが好きです。最近、ハイファイセットが好きです。



4月16日 三橋安代さん
(目黒本町福祉工房・経理)
笠間焼の器を集めています。温かい質感なので料理を盛るとおいしそうに見えます!



4月18日 阿部直人さん
(目黒本町福祉工房・生活介護)
メタルを聴きながらヘッドバン。

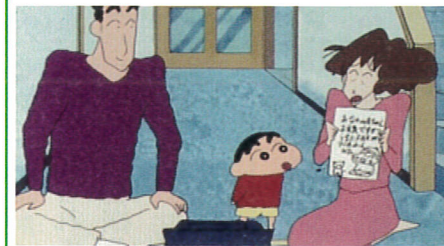
4月22日 佐藤陽子さん
(いたる相談室)
週に1回、卓球で汗を流します。20年続けている細く長いブームです。

5月01日 池田史暢さん
(パン工房 PukuPuku)
現在、百人一首を脳の活性化のために必死になって覚えています。まだ1つしか覚えていません。



5月06日 中村 緑さん
(あけぼの作業所・生活介護)
寝る前の携帯ゲームです。たった10分くらいですが、すぐ寝られます。

5月12日 菊嶋多恵さん
(目黒本町福祉工房)
子ども達と「クレヨンしんちゃん」を見ることです。バカバカしいので悩みがふっとびます。



5月13日 佐々木智香さん
(目黒本町福祉工房・就労B型)
マイブームは街歩きです。美味しいものを食べたり、変わったお店を覗いたりしています。

5月17日 橋口卓司さん
(阿佐谷福祉工房・生活介護)
仕事帰りに、スーパーで半額の食材を買って帰るのがマイブームです。

5月17日 高木知子さん
(あけぼの作業所・就労移行)
マイブームは、二年ほど前から月に一度献血を行っています。ボランティア精神と自分の健康管理の指針として。



5月26日 森本英一さん
(目黒本町福祉工房・生活介護)
さあ打て筒香 飛ばせ空の彼方 横浜に輝く大砲 かつばせホームラン GOGO 筒香

5月28日 光山彰一さん
(目黒本町福祉工房・就労B型)
マイブームは「グルメ」です。30にしてやっと食べ物のおいしさがわかってきました。

6月10日 蓬田正信さん
(阿佐谷福祉工房・副施設長)
小学校6年生の息子と、ユーチューバーの動画をいっしょに観ています。

6月12日 河野友介さん
(目黒本町福祉工房・就労B型)
音楽を聴くことです。レコードを買うのが楽しみです。

6月13日 池田佳津男さん
(イタル成城・ゼネラルマネジャー)
神社仏閣で御朱印を頂くことがマイブームです。御朱印帳は既に2冊目です。



6月20日 崔 慶柱さん
(あけぼの作業所・就労移行)
健康管理とストレス発散を目的に昨年3月より再会したテニスガマイブームです。

6月28日 大庭良夫さん
(目黒本町福祉工房・生活介護)
今、源氏物語を漫画化した「あさきゆめみし」(全7巻)を読んでいます。



法人設立50周年 記念事業について

今年、社会福祉法人いたるセンターは、設立50周年を迎えます。記念すべき節目の年にあたり、これまでいたるセンターを支えてくれた多くの皆様や、新たな歩みを始めるいたるセンターをこれから応援しようという皆様とともに、設立50周年を記念する事業を作りあげたいと存じます。

つきましては、法人設立50周年記念事業実行委員会を立ち上げ、記念行事や社史編纂を企画します。詳細は、7月発行の「いたる通信」にてご報告いたします。皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

いたる広報委員

発行責任者=谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/平成29年4月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



クリーニング事業への取り組み

阿佐谷福祉工房 施設長

佐藤 章 (さとう あきら)

三井不動産関連グループと
の事業連携での取組みとして、
ユニフォームや作業着等のク
リーニング事業を開始してい
ます。

4月からは、すでにスター
トしている新宿三井ビルの事
業所の作業着等の回収に加え、
西新宿三井ビル、四谷にある
ソフィアタワーでの回収が本
格的に始まります。

現在主な業務は、顧客とク
リーニングを行う工場との取
り次ぎ業務です。数の確認、
ポケットの中の確認、ボタン
や裾等のほつれ、ひどい汚れ
のチェックなどを行ない、工
場への集荷の車に乗せます。

また、クリーニングされたも
のを確認して、顧客へと納品
します。さらに、年に数回は
工場へ訪問し、クリーニング
の様子を見学するなど、商品
の品質管理にも気を付けてい
ます。



ご利用者が回収した作業着のチェックを行っています。

開設3年目を迎えて

イタル成城 セネラルマネジャー

池田 佳津男 (いけだ かずお)

イタル成城は、同じ建物
内に3つの異なる事業部が入
る障害者複合施設として、ま
た重度化へ対応する施設とし
て平成27年4月に開所し、平
成29年4月で3年目を迎える
こととなりました。

開所以来、保護者の方々や
関係者の皆様、行政のお力添
えを頂きながらご利用者様の
支援をして参りました。

今年度、生活介護事業部では
新たに8名のご利用者様を受
け入れることになり、定員で
ある45名となります。新規の
ご利用者様の受け入れ体制を
整えるとともに、短期入所事
業部や共同生活援助事業部の
人員体制の整備に注力するな
ど、職員全員が一丸となって
研鑽を重ね、皆様のご期待に
添えるよう努めて参ります。



45名の定員を満たし、新たなスタートを切ります。

29年度の取り組み

杉並区障害者地域相談支援センター (すまいる高井戸) センター長

春山 陽子 (はるやま ようこ)

すまいる高井戸は、今年4
月で5年目に入ります。生活
に生きづらさを感じていたり
困りごとを一人で解決するの
が難しい方や一人暮らしの方
への相談支援、交流の場や居
場所の提供、えほん展など地
域の方が障害の理解を深めて
もらう機会の提供や交流会な
どの開催、またピア(当事者
の方)相談員の育成等を継続
してまいります。

昨年4月から障害者差別解
消法がスタートし、意見の発
表の場、意思決定支援につい
てもさらに力を入れていきたく
いと思ひます。また法人職員
研修や新人・リーダー等の職
員研修を虐待防止委員会とし
て29年度も担当し、また地域
の支援者向けの学習会も開催
していきたくと思ひます。29
年度もすまいる高井戸をよろ
しくお願ひします。



えほん展&ミニコンサート 1月14・15日 29年度も開催します。お楽しみに。

グループホームの現場から

グループホーム部 カノン

中村 正人 (なかむら まさと)

ホーム玄関前に立ち、深呼
吸。「さあ、みなさんが帰っ
て来る、明るく、元気に迎え
よう」そう自分に言い聞かせ
てドアを開けると、テーブル
の上に丁寧に置かれた洗濯物
が置いてある。「○○さんだ
居室の前で「いつも洗濯物あ
りがとうございます。お茶飲
みませんか」と伝えると、ご
利用者様が伏し目がちにやっ
て来る。話が進まない中、
「ただいま」と、もうひとり
のご利用者様が弱々しい声で
一人帰寮する。仕事の労をね
ぎらい、お茶を提供して入浴
準備をして戻ると、○○さん
が話を聞いてあげている。



世話人歴3年の中村正人さんです。

いい雰囲気だと感じている時
「ただいま帰りました。夕食
は何ですか」と、また一人元
気にリビングに現れる。する
と二人が突然笑い出し、○○
さんが「チャック、チャック
」と叫び、そのご利用者様
が「おお、いかん、いかん」
と言ってリビングが笑いでつ
つまれる。この様にしてみな
さんに元気を貰って、私の仕
事がスタートします。

ご利用者様は、私達と同じ
様に悩み、訴えは多岐に渡り
解決には何日もかかる事が
多々あります。それでも世話
人を信頼してホームに返って
きます。私は同じ目線で一緒
に考え、悩み、最後は笑って
「行ってきます」と言える様
に対応しています。

世話人となり3年が過ぎま
した。今後の目標は、一人ひ
とりのストレスグス(強み)
を引き出し、気づきを多く見
つける事です。

社会福祉法人いたるセンターには、障害者の皆様の通所施設
をはじめ、グループホーム、ショートステイ、相談室、障害
者地域相談支援センター、0~2歳児の乳幼児をお預かりす
る小規模型事業所内保育所などを運営しています。支援や保
育を支えるのは、それぞれの現場で働く職員たち。今回から、
各事業部で活躍する名物職員の声を、そのままお届けいたし
ます。

ショートステイの現場から

クローバー・マルコ

中川 恵美 (なかがわ えみ)



四季の雰囲気や季節の行事を楽しんでいただいています。

こんにちは。今回は、短期
入所事業クローバー・マルコ
での取り組みをご紹介します
頂きます。

昨年「季節を感じて頂
きたい」という職員の意向で、
その時期に合った室内の飾り
つけを行っております。春に
はおひなさまや桜、夏には七
夕や花火、秋にはハロウィン
や栗、冬にはサンタやお正月
飾りと、すべて職員が手作り
し、レイアウトも考えており
ます。当初は気づいてもらえ
るか心配もありましたが、「
アッ、かわいいね」「もうこ
んな季節なんだね」など、想
像以上に皆様からの反響の声
を頂き驚いております。

働く職員を
応援する
いたるセンター
支援の現場から

ジュニアおうちん便り

ジュニアおうちん 園長

長谷川 貴志 (はせがわ たかし)

小規模型事業所内保育事業「ピヨピヨおうちん」と申しませす。昨年の四月に杉並区の認可を頂き、公立の保育園と同じ認可基準でいたるセンターの職員のお子様と地域のお子様、合わせて十二名をお預かりしております。「家庭的な保育環境」を目標とし、小さな保育園だからこそ出来る、子どもの心に寄り添った保育を行い、この四月で二年目を迎えることができました。

保育室からはたくさんの笑い声や元気な声が聞こえてきて、毎日を楽しく過ごしております。毎月の行事も、子ども達と共有できる体験を大切にしながら、ともに楽しんでいきます。

今後、子どもの成長を見守ってまいります。



昨年のクリスマス会。サンタクロースもやってきました！

自主生産品販売会レポート

商事部 (きたむら ひでふみ) 北村 英文



六本木ティーキューブで、初の販売会を開催しました。

2015年11月にスタートした5事業所による自主生産品合同販売会が、今年2月の六本木ティー・キューブでの開催で7回目となりました。7回続ける事が出来たのは、評議員の松本様のお力添えと、最初に合同販売会の実施を許可してくださいましたCOREDO日本橋の佐伯部長様の三井不動産(株) 関連会内での影響力が大きな要素であると両氏に改めて感謝申し上げます。

回を重ねる毎に販売会の姿が進歩的に変化してきた事が大変嬉しく思います。各事業所では積極的に売る工夫がなされ、場所提供者側では、単に場所を貸すだけではなくそこで働く人たちが参加してくれるに至りました。



多肉植物の育成を支援に採用しています。

植物との触れ合いを支援する活動を行なう等、工房との連携を深めています。

また、工房の生活介護部のご利用者様向けに多肉植物の育成を各週水曜日に6階にある菜園で研修を行っており、植物との触れ合いを支援する活動を行なう等、工房との連携を深めています。

今年度もガイドヘルパー研修を定期開催 エコール・ド・イタール (いしかわ たかし) 室長 石川 孝

は東京都指定研修事業として「知的障害者移動支援従業者養成研修」講座を上期(七月予定)と下期(二月予定)に定期的に開催する計画です。すでに昨年度分として、この三月三日〜十八日に受講者七名で実施し、実技演習を含めて修了しています。その場面を紹介してみましよう。

A受講者は、渋谷・原宿歩きのガイドヘルプに同行。目的地・スケジュール・金銭・行程等をしっかりと確認し出発です。竹下通りや表参道の散策を楽しんだ後、カラオケで絶唱、お目当てのタイ料理も楽しんだそうです。普段のご利用者様とは別人のような表情、躍動感を感じて感激したとA受講者は語ってくれました。この後、「サービス実施記録」の書き方なども学んで充実した演習を終えました。

これからの10年、意識が変われば行動が変わる

目黒本町福祉工房 施設長 阿久津 庄司 (あくつ しょうじ)

平成29年度は、目黒本町福祉工房にとって新しいステージが始まります。目黒区より、最初の指定管理期間5年間で終え、新たに10年間我々に工房の運営を託していただいたことに対して、感謝とより一層の責任感をもって運営にあたっていく所存です。

さて、「これからの10年」に思いを馳せた時、ふと表題の言葉が浮かびました。指定「房」として「成長」するには何を為すべきか。そんな「能動的な意識」が、「行動」の変化に繋がっていくのではないかと考えております。

目黒本町福祉工房として、そしていたるセンターとして、サービスの質向上のため、そして工房の発展のため、「可能性を追求」し続けてまいります。

「にぎやかな風」フルオープン

パン工房 PukuPuku 統括リーダー

池田 史暢 (いけだ あやのぶ)

2016年2月から試験的にオープンをした「パン工房 PukuPuku 2号店・にぎやかな風」が、本年4月より月曜から土曜までフルオープンいたしました。開店時間は9時から16時で、店頭ではパンの販売を行い、店内にはイートインのスペースも設置しました。店内奥ではパンの2次加工の一部を引き続き行います。

これによりご利用者様の訓練ならびに支援をより充実させることが可能になりました。昨年1年間で少しずつ常連のお客様も付き、阿佐ヶ谷地区での認知度も向上しつつあります。

今年度はイベント等も積極的にいながら、さらに知名度を上げていきたいと考えています。



JR 中央線・阿佐ヶ谷駅の高架下の名物店舗です！

目黒本町福祉工房との連携

さんまるしえ マネジャー (すずき たけし) 鈴木 健

さんまるしえは目黒本町福祉工房と連携して様々な活動を行っています。店舗の印刷物やチラシのポスティングを依頼する一方、家族連絡会では、工房分室で作られているシヨコラの出張販売を実施し、ご利用者様のご家族へ店舗運営のご理解を頂いています。

また、工房の生活介護部のご利用者様向けに多肉植物の育成を各週水曜日に6階にある菜園で研修を行っており、植物との触れ合いを支援する活動を行なう等、工房との連携を深めています。

作業所開設30周年に寄せて

あけぼの作業所 所長 荒川 義夫 (あらかわ よしお)

昭和63年5月1日に開所したあけぼの作業所も今年30年目の節目を迎えることが出来ました。杉並区立で始まった作業所でしたが指定管理の2カ年後、つまり平成21年4月1日から現在のいたるセンターによる経営に完全移管いたしました。この間、多くの皆様に支えられ、ご利用者様たちは日々の活動や作業を通じて社会参加を実現してきています。通所施設として日中のみの関わりではありませんが、明るく元気に通ってきてくれているご利用者様の姿に毎日、勇気をいただいています。私たち職員が出来ることは限られてはいますが、すべてのご利用者様に満足いただけるよう、最大限の努力をしております。

今、あけぼの作業所が取り組んでいる最大のテーマは、顧客満足NO1事業所への挑戦です。職員一人一人がそのために何を行っていかれば良いのかを考え、ご利用者様一人一人をどのように支えていけば良いかを組織としてチームとして考え、取り組んでまいります。ご利用者様のニーズはまだまだ大きな障壁が存在するのも事実ですが、これを取り除き、乗り越えられるよう支えていくのが我々の務めと心得ています。更に次の40年、50年に向けて皆様のご理解とご協力を切にお願いし、開設30周年に寄せたご挨拶とさせていただきます。 合掌



モダンなあけぼの作業所屋舎。